

第58回愛育班員全国大会 おことば

令和8年4月21日（火）

本日、第58回愛育班員全国大会が開催され、各地から参加された愛育班員、並びに関係者の皆さまにお会いできましたことを大変うれしく思います。

これまで、それぞれの地域において献身的に活動してこられた愛育班員の皆さま、そして愛育班員の活動を導き支えつつ、保健師として人々の暮らしに寄り添ってこられた育成者の皆さまに深く敬意を表します。また、本日表彰を受けられる皆さまに心よりお祝い申し上げます。

恩賜財団母子愛育会は、昭和8年12月、上皇陛下のご誕生にあたり、母と子が健やかに成長することを願われた昭和天皇の深い思し召しにより、翌年3月に設立されました。当時の我が国は乳児死亡率が高く、特に農村・漁村で著しかったことから、この課題に村ぐるみで取り組むという考えのもと、「愛育村」事業が始まり、「愛育班」の普及と育成が進められました。村長や学校長が愛育班長を務め、地域によっては、班員が愛育病院の医師から子育て、保健、栄養の知識を教わっていたと聞いています。

昭和20年代より、保健所において、保健師による離乳食の指導や母親学級などが始まり、愛育班員と保健師が力を合わせて活動するようになりました。発足当初から今日まで、愛育班の皆さまによる声かけ、見守り活動が続き、近年は地域の人々の健康を守る活動として、より広い年齢層への声かけがおこなわれるようになっていきます。

このようにして愛育班員と保健師の皆さまは長い年月にわたり、こどもの成長や子育てをする保護者、高齢者など地域の人々のことを考え、生活を支えてこられました。必要なときに助けてくれる人、優しく寄り添ってくれる人がそばにいるのは、どんなにか心強いことでしょう。皆さまが地域のつながりを大切にされ、こうした活動に尽力してこられたことに感謝いたします。

これまで母子愛育会の総裁として幾つもの場所を訪れる機会に恵まれました。昨年の10月は香川県を訪れ、香川県愛育連合会の方々とお会いし、ベビーマッサージ

ジに参加したお母さま方とお話をしました。11月には、東京の母子愛育会本部でおこなわれた交流会に出席し、将来の妊娠・出産に関する正しい知識を身につけ、健康管理をおこなうプレ・コンセプションケアについて聴講しました。また、愛育班員と保健師の皆さまが協力して、中学生が妊婦ジャケットを着て重量感や動きにくさを経験し、赤ちゃんを抱っこすることなどを通して、命の重みや尊さ、子育てについて学ぶ活動をおこなっている実践報告を聞きました。

本日の大会の第二部では、香川県、山梨県、岡山県、大分県と兵庫県の愛育班がそれぞれ特色のある活動を共有していただきます。独自につくられた愛育班の歌とダンスや、家庭内での事故防止と防災に役立つ冊子作り、中学生が地域の赤ちゃん、家族とふれ合い学ぶ体験、かつて愛育班活動に関わっていた方々が現役の班員を支える取り組み、そして子育てや健康に役立つ情報を伝える活動などについて、会場の皆さまとご一緒にお伺いするのを楽しみにしております。

本大会に参加されている皆さまをはじめ、各地で愛育班活動に携わっておられる方々がお健やかに過ごされますよう、そして、私たち皆で大切にしている「愛育の心」が次の世代へとつながっていくことを願い、大会に寄せる言葉といたします。